

第4号
広報委員会発行

関西大学通信

大阪府吹田市山手町3丁目
関西大学広報委員会

改革準備委員会が発足

長代行 正常化への構想うち出す

委員46名を選出

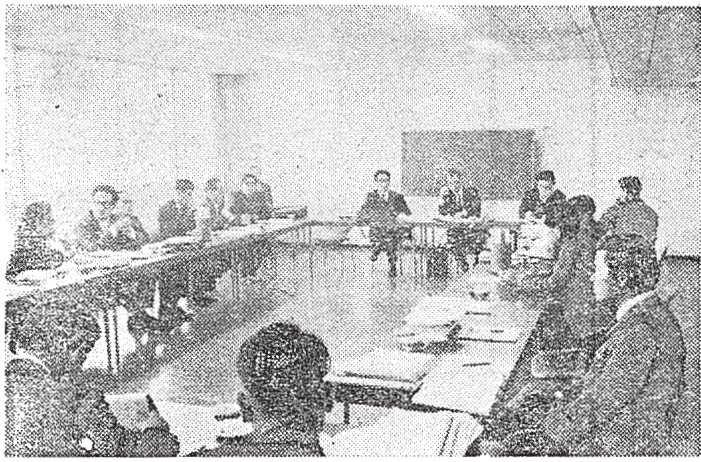
3分科会を編成し審議

広瀬学長代行は、関西大学百年の大計を願ひ、大学改革案を任期中に完成させることが最大の任務であると考え、改革準備委員会の構想をうちだした。

学長代行は、さき十月十一日「問題・討議資料」「明石学長事務付の「授業再開にさいして第一部 代行所見」等を参考にし、大の学生諸君へ」および十月二十三日の「後期授業開始にさいして第二部の学生諸君へ」の所信表明において、大学の真の自由と自治を守るために、暴力と破壊を大学から排除して正常化をはかることを、いわゆる「中谷学長案」ならびに各学部の改革案、「大学

再三協議し合意

一方、上記の学長代行の意を受けて大学執行部から学部長会議にて検討・採択した原案を各学部において「改革準備委員会」の構想を授け、各学部の代表者会議に



大学改革準備委員会で検討する委員たち

からの事務職員12名、各学部長代行・研究所長16名、および大学事務局の構成となつた。また、このほか数名の専門委員を参加させることとし、また助手を全学的配属のもとに参加させることにしている。本委員会の委員構成は、本年度三月に発足した「大学問題委員会」の場合より多数の事務職員が参加していること、決定事項について執行部の責任を

委員長に横川教授

当面の諸要求を検討

役職および教職員から選出された委員は次の諸氏である。
(委員長) 石尾芳久、藤本豊、荒井政治、酒井文雄、辻岡美雄、小川雅弥、堀田四郎、津田昌利、藤井啓行、田中幸雄、北野弘、直雄、堀正人、矢口孝次郎、北野弘、津川正幸、内田孝俊、山形耕作

十一月四日に正式に発足した後、八日(七)、九日(八)にも引き続き委員会がもたれた。これらの委員会で協議された事項は、委員会の性格、委員の構成、審議のスケジュールなどであった。特に、学生の当面の諸要求を重要なものについては、長期的な改革案と切り離して早急に検討すべきであるという結論に達し、まず工学部特別奨励入学および体育特別奨励入学の問題について協議された。その結果、工学部特別奨励入学についてはこれを来年度より廃止する。この制度は工学部創設以来工学部の維持発展を促し、既得の他学部にも及ぼさないという趣旨で設けられた。現行には十分その役割を果たしている。工学部の維持発展のためにはこれに代わる財源が必要であるので、別途確保することに努める。このことを確認した。また体育特別奨励入学は「来年度よりこれを廃止する」ということを委員会の結論とした。体育については長期的改革案の

授業再開いらいの

検問・機動隊駐留を中止

十月十一日の授業再開から、大間中止ととも、明石学長事務代行から府警当局へ出された駐留要請について、広瀬学長代行から評議の申し出をした。ただし、今後、暴力や破壊行為が再発した

平和をつくり出すために毅然たる態度を

大学執行部声明

検問中止と機動隊撤去を決定することと、広瀬学長代行は大学執行部と連名で別掲のよう声明を行ない、真に平和な学園をつくり出すために毅然たる行動をとることを示し、あらためてこのよう禁止事項を再掲し、千里山橋内の各所に掲示した。

火事事件が発生したため、一時的に検問中止が保留された。二日二十五日の学部長会議で、二日十六日より検問中止が最終的に決定され、その趣旨が示された。しかし不測の事態に備えて教職員による警戒は続けられている。検

【声明全文】

十月十一日、法・文・経・商・社の五学部の授業を再開し、以来、工学部と併せて大学部が歩みを進めて約一カ月余を経過した。この間、機動隊駐留、検問という事情の下ではあったが、大した暴力事件もなく、ほぼ平穏に授業が確保できたことは、学生諸君の協力によるところであると思われ、しかし、本来の正常化は、機動隊の撤退、検問の廃止の後こそ、真に平和な学園状態が保たれるものでなければならぬ。そのため、大学改革の問題に、暴力と破壊から守るという自

第一部の学生諸君へ

昭和四十四年十一月二十六日
関西大学
学長代行
法学部長代行
文学部長代行
経済学部長代行
商学部長代行
社会学部長代行
工学部長代行

および面談などを希望するもの、
(四) 教室へ押しかけたり、またはデモ・集会・放送・シブレット・コールなどの騒音により、授業を妨害するもの、
(五) 当分の間、学舎・建物から三〇以内の場所ではデモを行なうもの、
(六) 当分の間、十八時から翌朝八時まで、および休日昼・夜間を通じて、学内に侵入するもの、
(七) 当分の間、研究室棟(工学部を除く)、その他立入禁止区域に侵入するもの、



▼ 暴風雨・大雨の激しかった後の雨の降るよう、冬の陽差しも暖かい。デモ・集会もなく、機動隊の姿もみえない学園の静けさは、紛争の頃からあるとしか思えない。
▼ 世帯と学園との間に一線を画すかのように、わが学園にも、金網が張られた。金網と云うか、石垣やコンクリート壁に囲まれた他大学も数多いのに、新たに築かれる垣根は何か切れないものを、心のひだの中に沁みまてくる。いつの日か、当り前のことを受けとれることが、心理的線は妙なものだ。▼ 大学が「象牙の塔」といわれた時があった。真理の探究が世間との距離の中でなされる時代は去った。だが、右に左に揺れ動く激動の中で、大学は内外の圧力を受けて、真理を見失ってはならぬ一本の旗である。キャンパスに張られたバリケードが、その真理を守りぬく象徴であるなら幸いである。▼ 「象牙の塔」への批判として、「開かれた大学」が問題となつて、開かれた大学は国民すべての利益につながるためにあるものでなければならぬ。関西大学に選定された垣根は、真理の大道に連なる門と方って開かれることを願う。

ヨーロツパ
便利

文学部教授 大西



ニッ
コ
リ
作
戦

四ヵ月足らずという短い旅を突
り多くしようと、ヨーロッパの土
に降りたつ前に、私は一つのはか
りごとを案じ出したのです。

「誰にもニッコリ」——そか
にちていつOperation Smile
ニッコリ作戦。この作戦効を奏し
て、さまざまの国籍の、無数の人
々と知り合うことが出来まし
た——など、こうして得々として
るわたしを、「よくもまあ恥かし
げもなしに、誰にもニッコリな
ど、日本人の恥だ」などと思われ
る人がおられるかも知れませ
ね。イヤ、私自身もそうは言ひな
がら、そりやあ、てれ臭いです

よ、こは日本ですからね。見知
り、この人には満面の笑み。見知
らぬ人の顔は穴のあくほど見つめ
てからブイッとそっぽ。あるいは
チラ、チラ、チラと何度も人の顔
をかがつておいて、うっかり視
線が会おうものならスーッと目を
そらす——これは言うまでもな
く、日本独自の車中風景。この日
本国に帰還したとたんに、はやば
やと作戦室というところにしてし
まいましたよ。イヤそれよりも前
に、ニューヨークからの機上で、
日本人のステュアート・デスさん
に、私のニッコリをツンと黙殺された
時に、忠が知らせてはいたんです

がね。
 三ーロッパではじめて私が腰を落着けたロンドンで、その初日に宿まで乗って行った例の赤バツの(も)ともその時は重いトランクを持っていたので、その一階席で、隣りの席のおはあちゃんに「ニッリと笑いかけたら、息子さんとがカナタのどこかで日本人に親切にして貰ったことがある。」と話かけて来て、とうとう、 그리스 スに息子夫婦が帰って来るのでそろりすこしかけた停留所であわてて降りて行ったあとで、まわりの乗客が一樣に、ニヤツと私に笑いかけて、そのうちの一人、中年の夫婦人でしたが、「パスの中で、"thmy against"した人」を

おいらは半人間

とたんにクリスマスに招待するなんて、なんていい人なんでしょうね」

その朝も、台上に叫んでゐるのは黒人でした。Hyde ParkのSpeaker's Cornerに群がる聴衆の側も、いづうゝうゝと、うやら半分近くが黒人です。アメリカの白黒差別を弾劾しているらしいのですが、あまりに早口で、後ではききわけられませう。イヤ、前の人たちにもきこえず、*「ちいどぬいりやれ」*と野次が飛びました。弁士が台上で何かいって、おどけたしぐさをして見せると、すかさず——私の耳もとでしたので、思わずビッとラッパのふりまわして見せたので、

「お前はhalf-breedだ」「アホなぶか」「ちいどぬか」
と台上の弁士——*「I'm half educated」*、うしろ返して、私の方に、イヤ私の右横のそのニヤニヤ笑っている白人の方に腕をのばして、指を一本ピンと立てては、*「お前さん、お前さんは俺を人間だと思つてんのか？」* *「Yes or no, please」*——俺は平人間だ」

と弁士は吐きすて、真黒な顔に、ビツクリするほど白い歯をむき出して、ヘンな恰好に腕をアッ

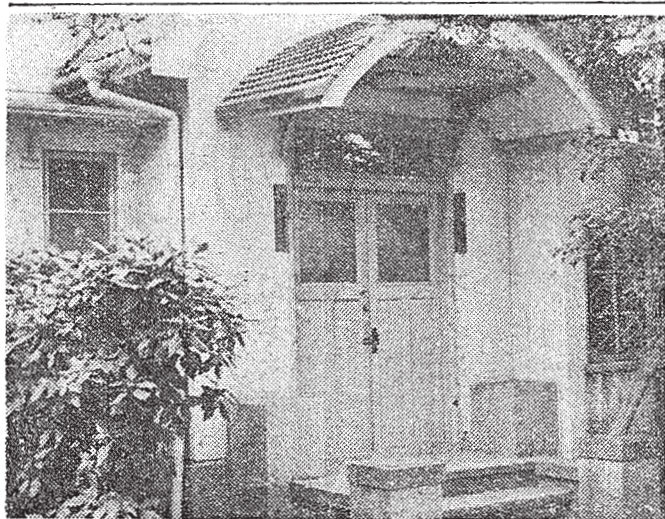
小さな天使たち

また一同大笑い。私の右横の、胸毛をモジャモジャとむき出したイギリスの労働者らしいその男も腹の底から笑っています。弁士は、どうやら台上に立っているのがたゞうれいらしく、何か手きびしいことを言っては、オドケたしく、でそのきびしさを音無しにして行行くようでした。私もそのときは、なんだか染しきくなってその場を去ったようにおぼえています。しかし、うしろ！

イギリスからフィッと思ひ立つてアイルランドに渡った時のことです。エル共和国の首都ダブリン、あの『ユリシイズ』のダブリンです。宿へ行くには日がまた高いので、リッピン河の舟つきでぐりの舟がもやってあって子供たちが十数人、その舟に飛びのたりして遊んでいます。イングリランドやスコットランドではトシと見かけなかったヤンチャなものです。というのは、北欧でも、またオランダでも、フランスでもそうでしたが、大と子供がおとなくく飼いならされ馴けられてゐることは驚くばかり。かけすりまわつて仕たい放題、悪戯のつき放題といった子供のの世界を見たのはこのアイルランドが最初でした。つい嬉しくなつて舅の私の「ニッコリ作戦」、ニッコリとやつたわけです。さあいけません、ワツと集つて来て、私のカメラはいじる、袍はあけようとする、制止する間もあらはこそ、アツという間に、誰かがトランジスターを持って逃げかけたつたらしく、あとの子供たちが、それを指して、「フニー、ソニー」と私に教えるのです。あわてて私が、「取り返して来てくれ」と叫ぶと「アイスクリーム」といふ答え。「よし買つてやる」とうなずくと、一さん走りに追つかけて行きます。二派に分れてつかみ合いをやつた筈、トランジスターラジオは帰つて来ましたが、そこで怒氣揚々たる十名の「隊」を連れてアイスクリーム屋へ、ころろがです。その店、このすちとおし

東西學術研究所

大学院と道一つ隔たてた所にある。尖がった屋根を持つ瀟洒な西洋館に研究所が置かれている。その昔個人の邸宅であったが、当



文化の交流図る

多数の資料や研究出版物

本学七十七年に研究所設立の勅機が以下のように記されている。

「治國書院の蔵書が寄贈された」と同じ昭和二十六年の三月、東京に開かれた極東國際軍事裁判（A級戦犯審理に關する東京裁判）の特別弁護人であった岡本尚三氏より、同裁判に關する文書約二万一千点が本学に寄贈せられた。また、同氏の斡旋によって同じく特別弁護人の宇佐美六郎氏からも

の模様を伝えている。

研究所は東西文化の比較研究を行ない、その特質を明らかにするものとともに東西文化の融化、統合を圖くことを目的に掲げ、現在までに數多くの研究成果を収め、それらは東西學術研究所紀要、叢刊、論叢、あるいは彙報、資料集刊などとして發表されて來た。

昭和四十四年度研究所所員の個人の研究題目と、最近出版された

- ・宮内庁書陵部蔵
- ―「船載書目」の研究 大庭愼
- ・時務報に見られる
- ・日本の語彙の研究 坂本一郎
- ・古代皇室財政の研究 蘭田香融
- ・賢愚経の研究 高橋盛孝
- ・東井義正・藤本勝次・三上 諒聰
- ・日本古代文献の本文批評的研究
- ・特に日本書記について・横田健

広瀬執行部の誕生とともに
従前の広瀬委員会と大学本部
報係とを統一、一元化した
しい広瀬委員会が発足し、既
関西大学通信第3号と関大通
速報第1号、第7号を発刊

- ・上代文学と中國文学 吉永 繁
- ・乾燥アジア・アフリカの生活様式と社会構造 末尾登行
- ・『新民叢報』にみる語彙の研究 芝田 稔
- ・近代的自我の成立とその展開 小川 悟
- ・アンドレ・ジイド研究 ―個人的生活と社会― 塚本利一
- ・Extra Pound of The Canto 研究 安川 昇
- ・墓志考 鋳方貞樹



【記】



祖
國
の
土

というチー—あの千のあのクリリッとした音も忘れられません。あの美しいアイルランドからあのはじっこい千は、いずれアメリカへでも出て行くでしょう。そしてなかけずにね。

バルセロンの目抜きの大通りランブラを、わたしはいつの間にか人波に吞み込まれて波止場まで連れて行かれました。大きな建物があり、その前に大きな広場があって、その広場にも屋上にも人また人。カメラを振りまわしてニコニコ笑いかけると、「ハボネ、ハボネ（日本人、日本人）」と言ってみんながニコニコと私を前へ前へと押し出してくれました。とうとう最前列に押し出されて見ると、ナントと二、三十頭の馬にまたがった美しい機兵のお出迎え——私をではなさそうでしたががネ、まわりの人たちがくちぐちに教えてくれるスペイン語の単語と単語をなんとなくが聞き合せて、どうやら、アメリカから、数十年ぶりに成功者たちの帰って来るのを、町を挙げて——イヤ、国を挙げてな

のが流れました。立ち上がった老人は、見まもる群衆を儀仗兵も目に入らぬげに、しわだたむ顔をコクンと仰向けてスペインの青い空を見上げていました。そして腕腕を、パンザイをする様な恰好に、ゆっくりとあげて ふかふかとスペインの空気を胸いっぱい吸っているかのようでした。そして、何か口のうちで言ってるようでしてしたが、勿論わたしは聞えませんでしたが、かつて繰りかえし熱読した「カラマーゾフの兄弟」の中にブリーショヤが、ソシマ長老に死なれた直後のことでしたか、われ知らぬ衝動にかられて、大地に接吻するところがありました。このこの吻するところがあります。そこには夏ソ連の映画「カラマーゾフの兄弟」が来ていたとか、そこにはみんな場面はなかったぞうですね。大地に接吻する——この様な思

お出迎えらしいのです。武装警官隊のものものしい警備ぶりです。なるほど、このときまで OPERAT ION NSPAGNA（「スペイン作戦」）と町おちうに機雷が張りめぐらされていました。やがて行進曲の演奏のうちに、老人たちが次々と破止場前の建物から姿を見せ、群衆は歓呼して迎えます。ところが、何人目かの老人が、ガバツと大地に伏せたのです。見るとどつてしょう。大地に接吻しているのです。最前列の人たちの間に、ホーツという吐息のようなも

めに、本学の教職員・学生に適切な情報と供給する作業を続け



〔編〕〔集〕〔後〕〔記〕

出されたため、新たに田嶋隆郎
委員と吉村常雄委員をお迎えし
て広報委員会の補充が行なわれ
た。また伊藤郁男・矢野恵二同
委員が広報委員会の副委員長と
して清水委員長の後務を随時代
行するようになった。

広報委員会とは関大生としての
精神的連帯感と事実に対する正
確な共通の理解を高めてゆくと
く、